

算 数 通 信

テーマ:「2 の 3 倍とは?」(2 年生の指導内容)

子どもたちに、「2 の 3 倍だから・・・、式は?」と質問したとき、「 2×3 」とすんなり式が出てこなかったり、「A は B の何倍」という問題に対して「 $A \div B = \text{何倍}$ 」という関係がつかめていなかったりしている子どもが多いように思います。そこで、どのような指導の系統なのかを調べてみました。

「かけ算」を習うのは、2 年生 11 月、12 月教材です。

11 月「かけ算(1)」で、「**はい**」「5 の 2 はいは、 5×2 」という考え方を学んでいます。

5 cm の 2 つ分のことを、5 cm の 2 はいといいます。

5 cm の 2 はいのながさをもとめるときも、 5×2 のかけ算のしきになります。

12 月教材「かけ算(2)」では、「**3** 九九のひょうときまり」の後、「**4** はいとかけ算」の学習があります。1 ページの内容ですが、ここでも、「**はい**」という考え方が出てきます。

問題 1 「㊦、㊩のテープの 4 はいのながさに、それぞれ色をぬりましょう。」

めあて 「4 はいの長さについて考えよう。」

この学習で学ばせたいことは、「同じ 4 はいでも、何の長さの 4 はいかが大切で、『何の長さ』かによって長さが変わる。」ということです。

● 11 月の「はい」と 12 月の「はい」は、指導内容が異なっていますね。

その後、2 月教材「分数」で、

・「同じ大きさに 2 つ分けた 1 つ分を、もとの大きさの二分の(一)といい、 $\frac{1}{2}$ と書きます。」

ここで、「**もとの大きさ**」という言葉が出てきます。さらに、「はいと分数」の関係も学習しています。次の太字の言い方です。

㊩の長さは、㊦の長さの 2 はい。

㊦の長さは、㊩の長さの $\frac{1}{2}$ 。

2 つの量の関係を表すこの言い方も、2 年生で学習しています。学習するだけで止めないで、この 2 つが言えるようにすることです。

2 年生の学習内容で、上の学年ですっと苦労する「もとの大きさ」「〇〇は、●●の何倍」という言い方を学んでいます。ここは、「指導したに留めず」、子どもたちに印象深く 2 つの言葉が残るような指導を行いたいです。

印象深くとは、教えることによって難しいです。プリントでも難しいです。授業の中で、何度も、多数の子どもたちが、「もとの大きさ」「〇〇は、●●の何倍」という言葉を使って説明を行うことだと考えます。そのような授業展開を考えていくことが必要だと考えました。